

令和2年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	2708	領域略称名	太陽地球環境予測
研究領域名	太陽地球圏環境予測:我々が生きる宇宙の理解とその変動に対応する社会基盤の形成		
領域代表者名 (所属等)	草野 完也 (名古屋大学・宇宙地球環境研究所・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、観測とモデルの融合によって太陽地球圏環境の変動を探り、その科学研究と予測研究を社会実装にまで高めることを目指す研究である。巨大太陽フレアの発生やコロナ質量放出の到達時間を、独自の理論的研究に基づいて、これまでよりも高い精度で予測することに成功したり、人工衛星や航空機の被ばくに対する警報を発する宇宙天気予報を実現したりするなど、未来社会においても重要な課題に対し基礎を与える期待どおりの成果があったと認められる。

また、中間評価時の所見において指摘された個別の研究課題間の連携については、連携タスクチームの体制を強化し、国際シンポジウムやセミナーの開催等の活動を通して適切に対応されていた。大学院生を対象としたサマースクール、若手支援プログラム、海外派遣プログラムなどの若手研究者育成のための活動も高く評価できる。

一方、高い学術的成果が多く得られたが、当初の目的であった成果の社会実装の達成には至っていない。ユーザー協議会を作るなどの社会活動は立ち上がっているものの、関連分野への波及はこれからの課題であり進展が望まれる。